

平成 26 年度
名古屋市立大学滝子キャンパス
植物相調査報告書

【調査の目的】

本学は、平成 23 年 10 月に東部丘陵生態系ネットワーク協議会に加入をし、環境保全計画の一つとして、滝子キャンパスの古墳の植生調査を行う旨を表明している。

そこで、本学敷地内の緑環境を保全し、近隣の緑地と繋げていくために、愛知県の「レッドデータブックあいち 2009」にて維管束植物の専門委員を務められた村松正雄先生へ滝子キャンパス内にある 2ヶ所の古墳を中心に、植生調査と植物相調査を依頼することになった。

平成 26 年度
名古屋市立大学滝子キャンパス
植物相調査報告書

2014 年 11 月

村松 正雄

1. はじめに

名古屋市立大学の4キャンパスはいずれも名古屋市の市街地に立地しており、中でも山の畑キャンパスは、最も緑が豊かである。この山の畑キャンパスは、もとは、第八高等学校、現在の名古屋大学のあったところである。八高の校舎は、1945年3月に空襲によりほとんど焼出し、1947年に再建された。1949年には新生名古屋大学に包括されたが、1964年に名古屋市に譲渡され、名古屋市立のキャンパスとなり、経済学部、教養部の建物などが建設された。1996年にキャンパス南東の区域に人文社会学部棟が新設され、現在に至っている。

この敷地内には古墳が残されており、ビルが建ち並ぶ名古屋市内の中心部において、植物の種類、量ともに大変豊富で、特異な自然環境を残している。極めて重要な場所である。古墳の名前は、当時の高等学校の名前をそのまま使い、八高古墳と呼ばれ、名古屋市の史跡巡りの一ヶ所に取り上げられている。

名古屋市立大学の建物は、主に、自然科学研究教育棟、人文社会学部棟、経済学部棟、生協、体育館などが建ち並ぶが、そのあいだには樹木の植栽された緑地帯が広々と設けられており、その樹木の回りには、多くの野生植物が見られる。多くが帰化植物で占められているが、名古屋市市街地としては、珍しい貴重な植物も見られる。

主なものとしては、ノビル、マスクサスゲ、エノキグサ、マツヨイグサ、ヨツバムグラ、コナスビ、ヌカボ、スイバ、ヒヨドリジョウゴ、コスミレ、ミズヒキ、アケビ、イヌガラシ、カタバミ、トラノオシダ、ノコンギク、オオジシバリ、ヤブヘビイチゴ、シラスゲ、ヨツバムグラ、ウスベニチチコグサ、コヒルガオなどがあげられる。このようなものが、名古屋の中心部の市街地に残されていることは特筆に値する。

しかしながら、周辺の緑地として、熱田神宮（南西約2km）、鶴舞公園（北約2km）、ならびに山崎川（東約2km）があるものの、キャンパスの近隣に連続するまとまった緑



滝子キャンパス (Google MAP 航空写真より)

地はない。そのため、近隣と生態系ネットワークを形成していくことは難しい。従って、
今後は、これらの緑を保護、活用しながら、飛翔能力の高い鳥類を想定して、地域の自
然拠点として、キャンパス内の質を高めて行くことが考えられる。また、キャンパス内
に見られる植物にネームプレートを付けるなどして、環境教育に生かしていくことも考
えられる。



2. 目的

最近、生物多様性ということが盛んに叫ばれている。ブラジルのリオデジャネイロで国連環境開発会議が 1992 年に開催され、世界中のみんなで協力して、生物多様性を保全していくための「生物の多様性に関する条約（生物多様性条約：CBD）」が採択された。この生物多様性条約では、生物多様性を「全ての生物の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む」と定義している。

そして、生物多様性条約は、生態系の多様性、種の多様性、遺伝子の多様性の 3 つに分け、これらが全て保たれて、初めて健全な自然が保たれることになるとしている。が、最も重要なものは、生態系であり、これが保全されれば、自ずと種や遺伝子は守られるはずである。

森林に例えて、森林を構成する木や草などの植物、その葉や実を食べる草食動物やその草食動物を食べる肉食動物、枯れた植物や動物の糞や死体を分解する微生物など、様々な生き物がつながりあうことで、循環の仕組みをつくっている。このような仕組みを「生態系」という。と説明している。この程度のことは、すでに、中学校 3 年生で学習していることである。問題なのは、これをいかに実践しているかということである。今までは、このことをないがしろにして、開発オンリーで来たことである。その付けが現在に回ってきているのである。

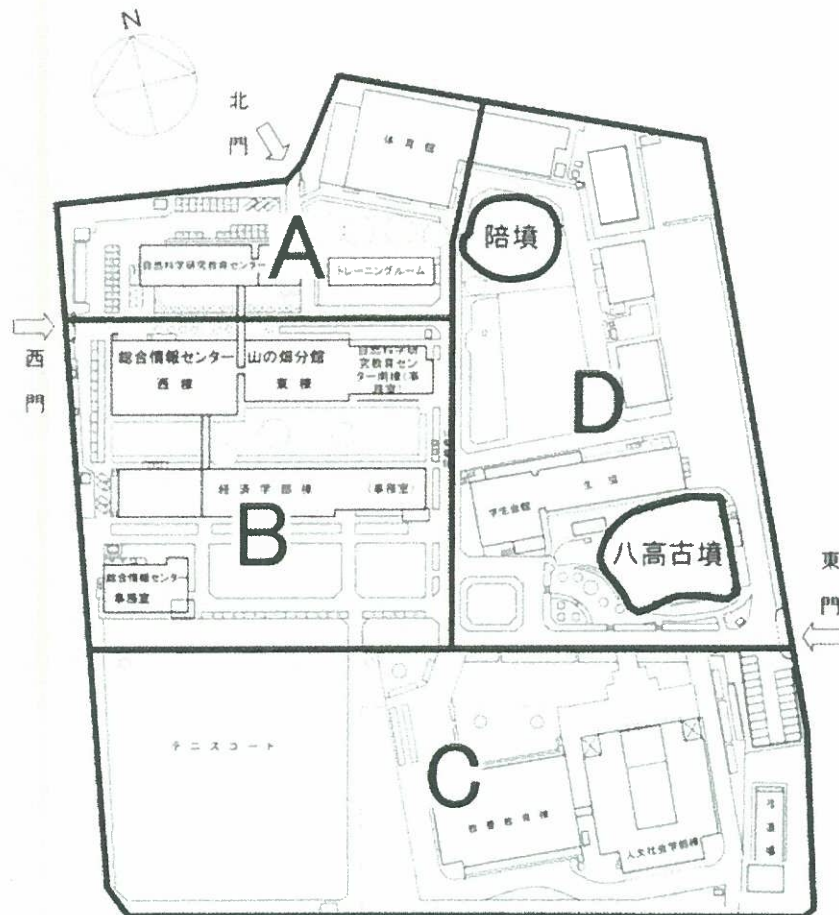
そのような中で、都市部に残されている緑地を緑の回廊で繋げようとグリーンウェイなるものが提唱され、愛知県でも多くのことが実践されている。名古屋市立大学も会員として参加している「名古屋東部丘陵生態系ネットワーク協議会」もそのひとつである。

従って、名古屋市立大学敷地内の緑環境を保全し、近隣の緑地と繋げていくために、現状を把握しておく必要がある。そこで、キャンパス内にある 2ヶ所の古墳の樹林について、生物生息空間としての質を高めるための管理手法を検討するために、この 2つの古墳を中心に、植生調査と植物相調査を行うことをした。

3. 調査方法

まず初めに、調査期間を大きく2回とし、一回目を春の植物を見るために、5月18日に、そして、二回目は、夏の植物を見るために、7月24日に設定した。しかし、これだけでは、全てを把握しきれないので、9月19日、10月8日、ならびに10月29日、11月18日を補足日として調査にあたった。

調査地の滝子キャンパスは、建物、芝地、ならびにテニスコートなどの運動用裸地を除くと周囲およそ1kmと狭く、緑被率も10%台であり、まとまった植物群落はあまり見られない。そこで、キャンパス内を大きく4つの区画(A~D区画)に分け、さらに、D区画内にある2つの古墳を別区画(八高古墳、陪墳)として、計6区画(図参照)とし、各区画の植生の特性をまとめた。また、敷地内に見られる植物調査を実施し、最近のDNA解析によって作られたAPGⅢの新しい分類体系に従い、区画別の植物目録を作成した。ただし、明らかに植栽された樹木は除いたが、中でも特に大きなものや珍しいものは目録に入れた。



植生調査区

4. 調査結果

(1) A区画

A区画は、自然科学研究教育棟の回りを中心とするところで、西側にはソメイヨシノの大木が植栽され、北側はエノキ、ツブラジイの大木があり、さらに、東側のトレーニングルーム（体育館）前には、クスノキの大木が3本植えられている。西側のものが最も大きく、胸高囲4.8mもあり、市内でも最大級のものである。



体育館南のクスノキ

古墳を除く4区域の中では、最も植生の豊かなところであり、見られる植物の種類として、全区域232種類のうち105種類を数えることができる。ノビルを筆頭に、マスカサゲ、アオツヅラフジ、ミズヒキ、コナスビ、コスミレ、スズメノエンドウ、ケチヂミザサ、ツルウメモドキ、ヤブコウジなどをあげることができる。帰化植物に押されるなか、このように植物が豊富に見られることは、豊かな植生が残されていることを意味し、大変貴重である。

さらに、この一角には、ウマノスズクサが沢山見られ、ジャコウアゲハの群舞が見られることは、極めて重要なことである。この一帯は草刈りをせずにウマノスズクサを残し、生物多様性の保全がなされているといえる。

(2) B区画

南側には、広い草地内に何本かの樹木が植林されている。その下には、草本類として、ニガナ、カニツリグサ、ヨツバムグラ、ミドリハコベ、マツヨイグサ、マスキサスゲ、ヌカボ、スイバなどが見られ、その中でも貴重なものとして、ヨツバムグラがあげられる。山地性のものがこのような所で見られるのは、大変貴重なことである。

樹木としては、ナラガシワ、クスノキ、クロガネモチ、アメリカフウ、ヤマモモ、スダジイ、ホルトノキなどが植えられているが、中でも珍しいものがホルトノキである。中心部に2本植えられており、7月の10日前後に、鋸歯状に裂けた花びらをもつ特異な花を、穂状にびっしりとつけるので、鑑賞価値は高い。その後、沢山の実をつける。



情報センター南のナラガシワ



経済学部南の中庭のホルトノキ



ホルトノキの花

(3) C区画

南側のテニスコートの周りから、南東隅の弓道場までの区域で、やや乾燥気味のところである。西側のフェンス沿いは、B区画からの続きでシャクチリソバの大群生地である。

教養教育棟の北側は、芝地が広がり、背の低い植物が中心に見られる。セイヨウタンポポが広がる中、ニホンタンポポも残っている。また、ニワゼキショウやオオニワゼキショウが青紫色の花を敷き詰めたように咲き、その両者の雑種であるアキマルニワゼキショウもわずかに見られる。

教養教育棟から弓道場の周りに植物が割合多く見られ、ノコンギク、ヤブヘビイチゴ、ナギナタガヤ、ニホンタンポポ、スイバ、カタバミ、ノビル、ハルジオン、チチコグサモドキ、ホソムギ、ドクダミ、タチスズメノヒエなどが主なものである。ノコンギクが沢山見られるのはこの区域の特徴である。

(4) D区画



八高跡地の碑とソテツの植栽

八高古墳と陪墳のある北東側の広い区域であるが、古墳を除くとほとんどが、駐車場やテニス広場が中心で、その回りに植物生育地が残されている程度のところで、植生はそれほど豊かではない。

チカラシバ、ハルジオン、スズメノエンドウ、コメツブツメクサ、マメグンバイナズナ、ノハカタカラクサ、スギナ、キキョウソウ、マスクサスゲ、オオスズメノカタビラ、ツボミオオバコ、キュウリグサ、イヌムギなどが、よく見られるといったところである。

この区域で一つ付け加えておかなければならないことは、ソテツの植栽である。昭和53年10月15日に、八高創立70周年記念の碑が建てられるとともに、現在のソテツも移植されたようである。今年で37年目を迎える。もとは、藤井乙男国文学教授が寄付され、南門を入れてすぐのロータリーに植えられていたもので、昭和20年の空襲にあって、焼けたものが芽吹いて移植を重ね、現在に至っているとのことである。

(5) 八高古墳

名古屋市立大学敷地内においては、最も植生が豊かに残っている貴重な区域である。植生は、適宜植えられてきたものが主流であるが、ほとんど手を加えずにきたために、自然生えのものも多く、自然が回復した状態を示している。



八高古墳遠景



八高古墳看板

胸高囲が2 m以上のケヤキやムクニキ、クスノキなどの大木は古くに植えられたものと考えられるが、中・低木のヒサカキやシャシャンボ、サカキ、エノキ、アカメガシワ、ムラサキシキブなどは実生で増えてきたものと考えられる。

この八高古墳には、特にホルトノキの実生の幼木がたくさん見られる。実のなる親木が見当たらないので、初めは大変不思議に思えたが、その謎は調査の後半で判明した。それは、B地区で述べたように、そこに実のなるホルトノキの大木が2本植えられており、秋に落下した実と刈り取った草をまとめて、八高古墳に積み重ねてきたためである。

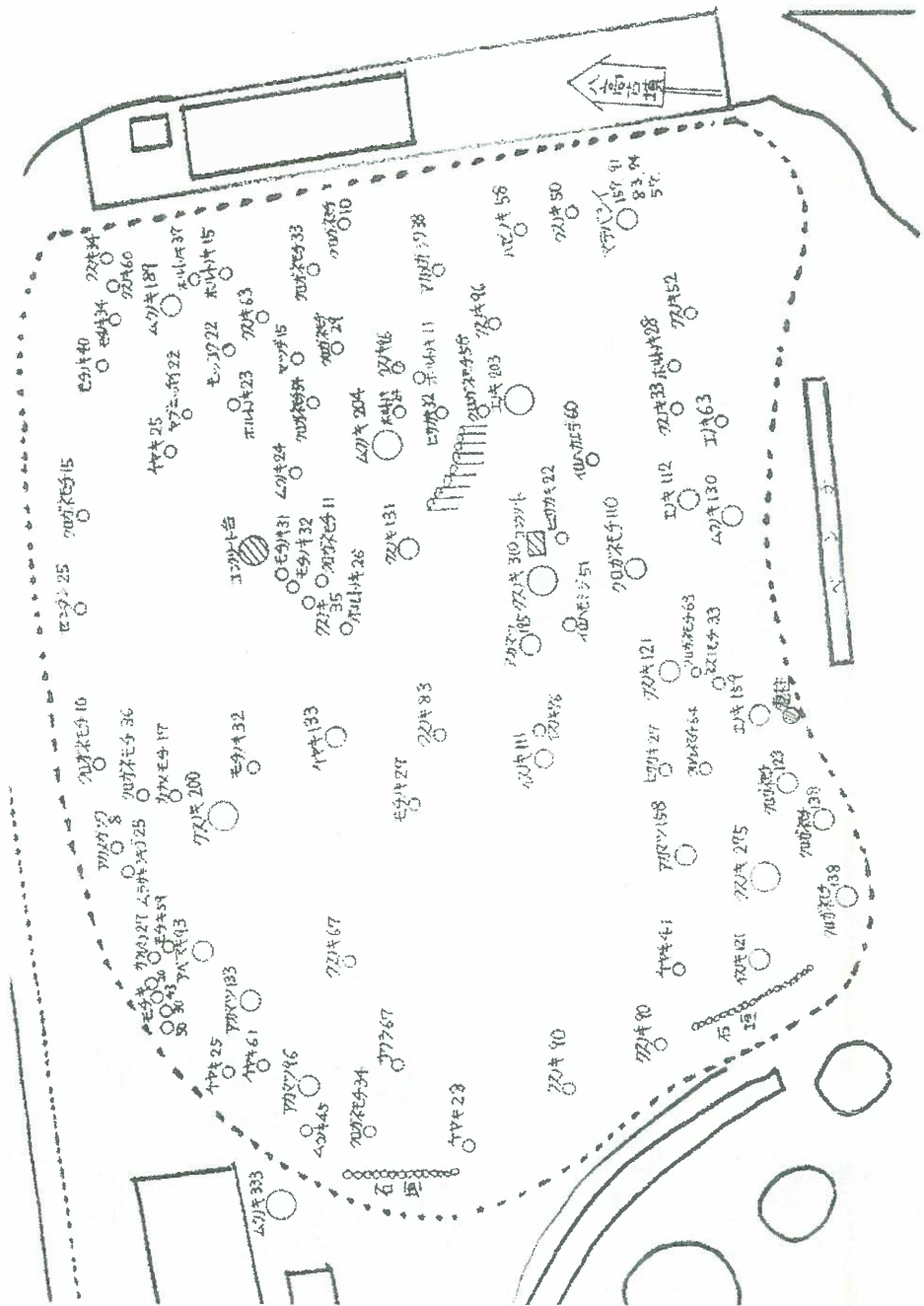
ここは樹木が鬱蒼と茂っているので、その下草も豊富で、ヒヨドリジョウゴ、シラスゲ、ベニシダ、ケチヂミザサ、マスクサスゲ、ヘクソカズラ、ノビル、ハルジオン、ノイバラ、コンゴウダケなどが見られる。現在、ほとんど手を加えずに残されているので、今後も同様にそのまま残していきたいところである。



ムクノキ



ホルトノキ



八高古墳の植生

樹木の位置を○で示した。また、図中の数字は幹回り (cm) を記入した。

(6) 陪墳

ここには、八高記念植樹としてヒトツバタゴが3本、平成2年3月に植えられている。その中心には、剣と森と八高生像の立札とその像が建てられている。また、中心の最も高いところには、第八高等学校跡地と記した花崗岩で作られた石柱が建てられている。周りには、エノキ、クスノキ、アカマツ、クロガネモチ、ムクノキ、アベマキなどの大木が繁り、下草が豊富に生えているが、ここは年2回ほどきれいに草刈りがされる。従って、その時期には全く下草は見られない。



陪墳遠景

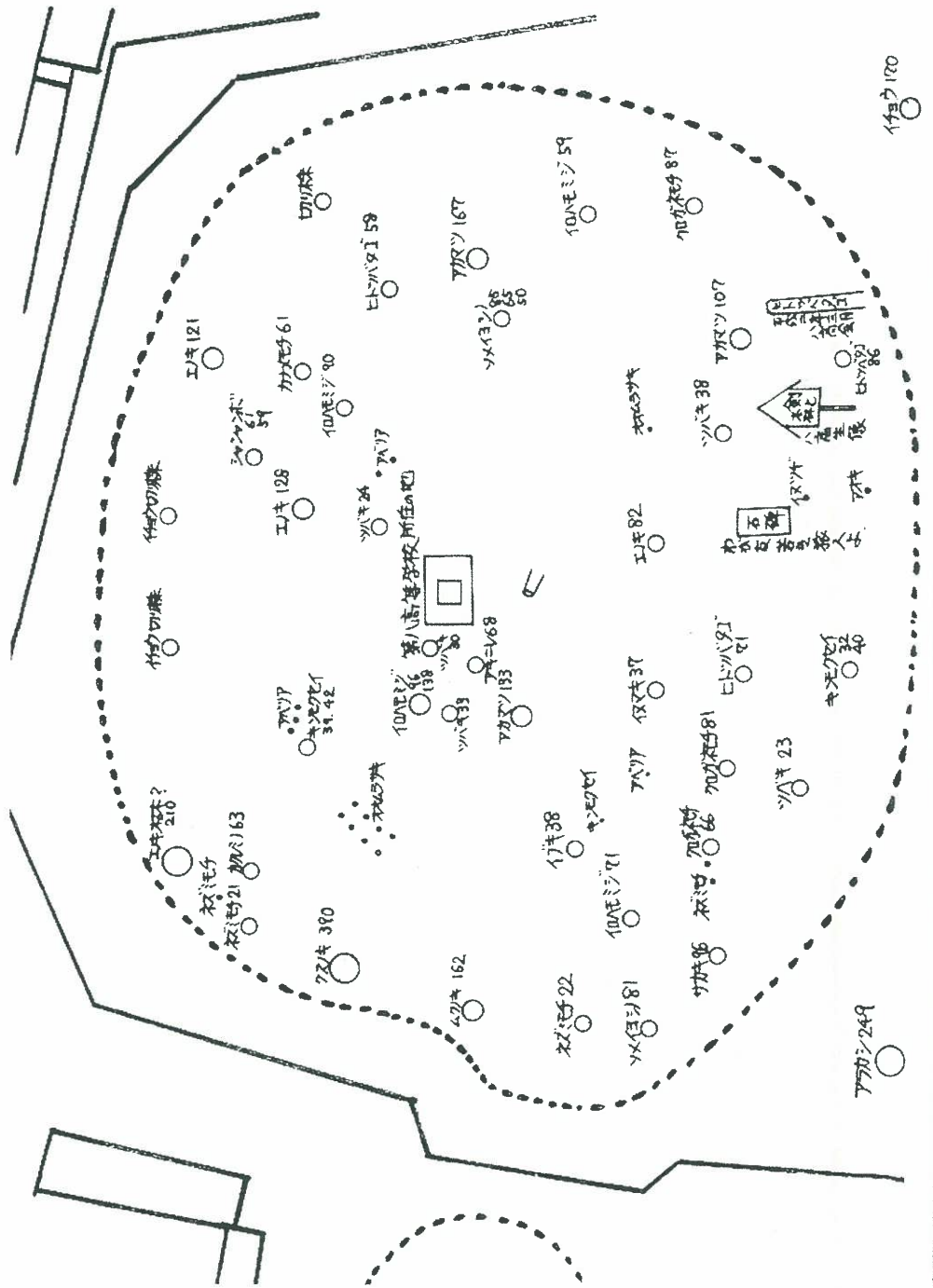
主だったものとしては、ノコンギク、ヨモギ、オオジシバリ、マスクサスゲ、ヒロウザサ、ヤエムグラ、アケビ、ノゲシ、ヒヨドリジョウゴ、トラノオシダ、マンリョウ、オオスズメノカタビラなどが見られ、植生としては豊富である。



石柱



八高生像



陪墳の植生図

樹木の位置を○で示した。また、図中の数字は幹回り (cm) を記入した。

5. 植物目録

番号	大分類	科	植物名	分布						
				A区	B区	C区	D区	八高古墳	陸墳	
1	シダ植物	トクサ	スギナ			○	○			
2		カニクサ	カニクサ	○	○					
3		コバノイシカグマ	ワラビ	○						
4		チャセンシダ	トラノオシダ	○						
5		オシダ	ベニシダ					○	○	
6		シノブ	シノブ						○	
7		ウラボシ	ミドリノキシノブ	○						
8	裸子植物	イチヨウ	イチヨウ						○	
9		マツ	アカマツ					○	○	
10		イヌマキ	イヌマキ					○	○	
11		ヒノキ	イブキ						○	
12	被子植物	ドクダミ	ドクダミ		○	○				
13		ウマノスズクサ	ウマノスズクサ	○	○					
14		クスノキ	クスノキ					○	○	
15			ヤブニッケイ					○		
16	単子葉植物	サトイモ	カラスビシャク	○						
17		ヤマノイモ	オニドコロ			○				
18		ユリ	タカサゴユリ		○	○	○			
19		ラン	ネジバナ	○						
20		アヤメ	オオニワゼキショウ		○	○				
21			ニワゼキショウ	○	○		○			
22			アキマルニワゼキショウ		○					
23			ヤブカンゾウ						○	
24			ヒガンバナ	ノビル	○	○	○	○	○	○
25				ヒガンバナ	○					
26				ハタケニラ			○			
27		キジカクシ	ジャノヒゲ			○	○			○
28			ナガバジャノヒゲ					○		○
29		ヤシ	シュロ			○				
30		ツユクサ	ツユクサ	○		○	○	○	○	
31			ノハカカラクサ							
32		イグサ	クサイ	○		○				
33			スズメノヤリ		○	○	○			
34		カヤツリグサ	シラスゲ						○	
35			マスカサゲ	○	○	○	○	○		
36			アオスゲ			○	○	○		○
37			ココメガヤツリ					○		
38			ヒメクゲ			○				
39			ジュズゲ		○					
40			ヒメクゲガヤツリ		○					
41			モエギスゲ			○			○	
42			メリケンガヤツリ	○			○			
43	イネ	ヌカホ		○	○	○				
44			メリケンカルカヤ	○	○	○	○			
45			ヒメコバンソウ		○		○			
46			イヌムギ	○	○	○	○	○		
47			スズメノチャヒキ					○		
48			カラスノチャヒキ			○				
49			メヒシバ	○		○	○			
50			コメヒシバ	○	○		○			
51			アオカモジグサ	○	○		○			
52			カモジグサ	○	○	○	○	○	○	
53			オヒシバ							
54			カゼクサ	○	○	○	○			
55			コスズメガヤ	○			○			
56			ニワホコリ							
57			チガヤ	○	○	○				
58			ネズミムギ			○				
59			ホソムギ			○				
60		ススキ	○		○			○		
61		ケチヂミザサ	○		○	○	○			
62		シマスズメノヒエ		○						
63		タチスズメノヒエ			○					
64		チカラシバ		○	○	○				
65		ネザサ	○			○	○	○		
66		ゴキダケ	○							
67		コンヨウダケ					○			
68		ヒロウザサ	○					○		
69		シバヤザサ					○			
70		スズメノカタビラ		○	○					
71		ツルスズメノカタビラ		○		○				
72		ナガハグサ		○	○					
73		オオスズメノカタビラ	○	○	○	○		○		
74		トボシガラ					○			
75		オニウシノケグサ	○	○		○				
76		アキノエノコログサ	○			○				
77		コツブキンエノコロ	○							
78		キンエノコロ		○						
79		ホナガキンエノコロ	○							
80		エノコログサ	○	○	○	○				

番号	大分類	科	植物名	分布					
				A区	B区	C区	D区	八高古墳	陪墳
81			ヒメモロコシ		○				
82			ネズミノオ				○		
83			カニツリグサ		○				
84			ナギナタガヤ			○			
85			シバ				○		
86	双子葉植物	ケシ	ナガミ/ヒナゲン	○			○		
87			アケビ	○					○
88			ゴヨウアケビ	○				○	
89		ツツラフジ	アオツツラフジ	○					
90		メギ	ナンテン					○	
91		マンサク	イスノキ					○	
92		ベンケイソウ	コモチマンネングサ	○			○		
93		ブドウ	ヤブガラシ	○	○	○	○		○
94			ツタ	○					
95		マメ	アレチヌスビトハギ	○			○		○
96			牡丹ハギ		○				
97			ハリエンジュ					○	
98			コメツブツメクサ		○	○	○		
99			シロツメクサ	○		○			
100			スズメノエンドウ	○			○		
101			カラスノエンドウ	○	○		○	○	
102		バラ	ソメイヨシノ					○	○
103			ヤブヘビイチゴ			○	○		
104			ヘビイチゴ	○		○			
105			ノイバラ				○	○	
106			ミヤコイバラ	○					
107			カナメモチ					○	○
108		ニレ	アキニレ					○	○
109			ケヤキ					○	
110		アサ	ムクノキ					○	○
111			エノキ					○	○
112		ブナ	ツブラジイ	○				○	
113			スダジイ	○	○				○
114			マテバシイ					○	
115			ナラガシワ		○				
116			アラカシ						○
117			アベマキ					○	
118		ニシキギ	ツルウメモドキ	○					
119			コマユミ					○	
120			マユミ					○	
121		カタバミ	カタバミ	○		○	○		○
122			ムラサキカタバミ	○	○	○	○		○
123			オウタチカタバミ	○	○		○		
124			オオキバナカタバミ		○				
125		ホルトノキ	ホルトノキ		○			○	
126		トウダイグサ	エノキグサ	○		○			
127			コニシキンソウ	○			○		
128			アカメガシワ					○	
129		スミレ	コスミレ	○					
130			スミレ				○		
131		フウロソウ	アメリカフウロ	○		○	○		
132		アカバナ	マツヨイグサ		○	○			
133		フトモモ	フエイショア	○					
134		ウルシ	ハゼノキ	○				○	
135		ムクロジ	イロハモミジ					○	○
136		ミカン	サンヨウ					○	
137		センダン	センダン					○	
138		アオイ	アオギリ			○			
139		アブラナ	マメゲンバイナズナ	○	○	○	○		
140			イヌガラシ	○	○				
141		タデ	シヤクテリソバ		○	○	○		
142			イタドリ				○		
143			ミスヒキ	○					
144			ミチヤナギ					○	
145			イヌタデ	○			○		
146			スイバ			○			
147			ナガバキシギシ	○	○	○	○		
148			エゾノキシギシ	○		○	○		
149		ハゼラン	ハゼラン	○		○			
150		スベリヒユ	スベリヒユ				○		
151		ナデシコ	オランダミナグサ	○			○		
152			ミチバタツメクサ	○			○		
153			ミドリハコベ		○				
154			イヌコハコベ	○					
155			スベリヒユ				○		
156		ヒユ	ヒナタイノコヅチ	○	○		○	○	
157		ヤマゴボウ	ヨウシュウヤマゴボウ	○				○	
158		オシロイバナ	オシロイバナ	○		○	○	○	
159		アジサイ	ヤマアジサイ					○	
160		サカキ	サカキ					○	○

番号	大分類	科	植物名	分布					
				A区	B区	C区	D区	八高古墳	陪墳
161			ヒサカキ					○	
162			モッコク					○	
163		サクラソウ	マンリョウ		○	○			○
164			ヤブコウジ	○					
165			コナシ	○	○				
166		ツバキ	ヤブツバキ					○	○
167		マタタビ	キウフルーツ					○	
168		ツツジ	オオムラサキ					○	○
169			シャシヤンボ					○	
170		アオキ	アオキ					○	
171		アカネ	ヤエムグラ	○		○		○	
172			ヨツバムグラ		○				
173			ヘクソカズラ	○	○	○		○	○
174		ムラサキ	キュウリグサ	○	○			○	
175		ビルガオ	コヒルガオ	○		○	○		
176			オオアメリカアサガオ			○			
177		ナス	オオイヌホオズキ	○			○	○	○
178			アメリカイヌホオズキ	○			○		
179			カンザシイヌホオズキ				○		
180			ワルナスビ	○					
181			ヒヨドリジョウゴ	○			○	○	○
182			タマサンゴ	○					
183		モクセイ	ヒトツバタゴ						○
184			ネズミモチ					○	○
185			キンモクセイ					○	○
186		オオハコ	マツバウンラン	○	○				
187			オオハコ			○			
188			ヘラオオハコ				○		
189			ツボミオオハコ	○	○		○		
190			タチイヌノフグリ	○	○		○		
191			オオイヌノフグリ	○					
192		シソ	ムラサキシキブ					○	
193			ヒメオトギリソウ	○					
194			ホトケノザ	○					○
195		サギゴケ	トキワハゼ		○				
196		クマツツラ	シテヘンゲ			○			
197		モチノキ	イヌツゲ					○	○
198			モチノキ					○	
199			クロガネモチ					○	○
200		キキョウ	キキョウソウ	○	○		○		
201		キク	ヨモギ	○	○	○	○		○
202			ヨメナ	○					
203			ノコンギク	○		○			○
204			コバノセンダングサ		○				
205			アメリカセンダングサ					○	
206			コセンダングサ	○			○		○
207			アメリカオニアザミ		○				
208			オオキンケイギク				○		
209			ヒメムカシヨモギ	○		○			
210			ダントロボロキク				○		
211			ヒメジョオン	○	○		○	○	
212			ハルジョオン	○	○	○	○	○	
213			オオアレチノギク	○					
214			タチチヂコグサ				○		
215			ウラボシチヂコグサ	○	○	○			
216			チヂコグサモドキ			○	○		
217			チヂコグサ		○	○			
218			セイタカアワダチソウ	○		○	○		○
219			キクイモ	○					
220			ニガナ		○				
221			オオチシバリ						○
222			アキノノゲシ		○	○			
223			ノハコグサ	○					
224			オニノゲシ	○				○	○
225			ハルノゲシ	○	○		○	○	
226			セイヨウタンポポ	○		○	○		
227			ニホンタンポポ			○			
228			アオオニタビラコ	○		○		○	○
229		レンブクソウ	サンゴジュ					○	
230		スイカズラ	アベリア					○	○
231		ウコギ	カクレミノ					○	○
232			ヤツデ					○	